

第4回円城寺次郎記念賞決まる

2015年11月22日発表

日本経済新聞社と日本経済研究センター共催の第4回「円城寺次郎記念賞」(2015年度)の受賞者は以下のように決まりました。

《受賞者》賞（賞金100万円および副賞として記念品を贈呈）



川口 大司 (かわぐち だいじ) 氏
一橋大学大学院経済学研究科教授



北尾 早霧 (きたお さぎり) 氏
慶応義塾大学経済学部教授

審査委員長から

現実照らす礎構築

一橋大学名誉教授 今井 賢一

円城寺次郎記念賞の理念は、具体的な政策論議に貢献し得る若手中堅研究者の顕彰を通じ、次代を担うエコノミストが一層活躍できる触媒を形成すること、というのが私の理解である。

4回目にあたる今回は多数の有識者から推薦を受けた候補者リストをもとに審査した結果、川口、北尾の両氏の受賞が決まった。私からはお二人の業績について、特に感じた点を述べることにしたい。

北尾氏の業績に典型的に示されているが、先ず、経済分析の前提自体を問い直すという基礎作業と、それを明示的に行うことの重要性である。

経済学の世界では「新古典派」と呼ばれる経済学を多くの研究者が信奉しており、そこでは完全な競争市場が実現しているという抽象的な前提のもと、大半の分析が行われている。しかし、現実がそうでないのは説明を要しないだろう。

そうしたなか、北尾氏は「市場が不完備で個人格差が生じる社会」を前提に分析した。言うならば、現在主流の経済学の大前提への挑戦である。

現実と合致しない抽象的な前提への挑戦など、一見、誰にでも簡単にできそうだが、「言うは易く行うは難し」の典型で、規範として成立している枠組みを問い直す作業は、実際にはかなり難しい。しかし、現実がそれを要求する限り、経済分析が、経済学者が応えなければならない課題であるのは言うまでもない。

北尾氏（と共同研究者）は独自に新たなモデルを構築。そこに風穴を開け、より現実的なシミュレーション分析への道を大きく切り開くと共に、次代のエコノミストたちの活躍できる場を創り出した。

他方、川口氏のように幅広い政策論を展開するには様々な現場情報を収集することが課題となる。その場合、政策現場の声など、新鮮な情報を研究課題に反映させる不断の努力が重要なのは言うまでもない。

川口氏は政策研究推進の“場”としての情報ネットワークの形成に成功しており、研究にそれをフル活用している。これもまさに私の考える円城寺賞の期待に応える成果である。

現在、伝統的な経済学の枠組みを超えたところで、資本主義は大きな岐路に差しかかっている。具体的に言うのなら、人工知能を含む情報技術の指数関数的な成長などが資本主義をどのように変えるのか（揺さぶるのか）といったような課題である。

今回の一連の審査を通じ、将来有望な多くの若手研究者の存在が浮かび上がってきたが、新たに台頭しつつあるこうした様々な問題・課題群に対し、的確に対処するためにも、次代を担う若手研究者らには、現状の成果に満足することなく、より一層野心的な取り組み・プロジェクトに挑戦することを、そしてそうした経験を通じて大きく成長されることを強く望みたい。

*本文中の「審査委員長から」「第4回記念賞に輝いた2氏の横顔」は、2015年11月22日付日本経済新聞朝刊（特集面）から転載しています。

▼本賞の目的

経済理論の分野で独創性を発揮、あるいは経済理論を応用して現代経済の実態を鋭く分析、内外の経済動向を深く洞察し、経済政策や企業経営などに有益な示唆を与えた若手・中堅の学者・エコノミストを顕彰する。

▼審査委員

- 【委員長】 今井賢一 一橋大学名誉教授
- 【委員】 藤田昌久 経済産業研究所長
- 岡崎哲二 東京大学教授
- 松井彰彦 東京大学教授
- 浦田秀次郎 早稲田大学教授
- 芹川洋一 日本経済新聞社論説委員長
- 斎藤史郎 日本経済研究センター会長
- 岩田一政 日本経済研究センター理事長

(順不同)

 えんじょうじ じろう
円城寺 次郎


日本経済新聞社元社長
 日本経済研究センター初代理事長

1907年生まれ。33年早稲田大学卒業、中外商業新報社（日本経済新聞社の前身）入社。46年編集局長、56年主幹などを経て、68年～76年代表取締役社長。雑誌「日経ビジネス」や日経流通新聞、日経産業新聞の創刊、新聞制作のコンピューター化によりデータベース事業展開の基礎を築き、日本経済新聞社を「経済に関する総合情報機関」に発展させた。76年～80年同社会長。経済審議会会長をはじめ多くの政府審議会会長を務める一方、内外美術の紹介に力を注いだことでも知られる。

編集局長当時から経済に関する研究機関設立の構想を温め、1958年に日経社内に「経済研究室」を立ち上げた後、学界、経済界、官界の協力を受けた独立機関として63年12月、日本経済研究センターを設立した。64年4月に大来佐武郎氏を理事長に招聘するまで初代理事長を務めた後、理事としてセンターの運営に貢献。センターは民間シンクタンクの草分けとして、若手の経済学者、エコノミストが集い、活躍する舞台となった。82年～87年センター会長。94年3月14日死去。